

# デモ・リサとは何か？

—わたしたちの自前の発信基地をつくりましょう！

山河進（静岡・沖縄を語る会）

## パソコンを使い動画配信(ユーチューブ)

わたしの関係しているデモ・リサTV（ラジオ）の話を見せてください！

わたしども「民主主義研究所」（デモクラシー・リサーチ。略称「デモ・リサ〈DEMO-RESE〉」）は、ユーチューブ動画配信の市民運動体です。マスコミの取り上げないテーマを扱ったり、マスコミとは異なる角度からのアプローチをするなど、人民のコミュニケーション媒体をめざしています。とくに、若い世代にどう訴えるかということを重視して、ユーチューブという手段を選びました。

## デモ・リサの沖縄シリーズ

目下、沖縄シリーズとして、静岡沖縄を語る会の渡辺幸重さん（「学校で教えない本当の沖縄」全3回）と山崎ひろみさん（「日米地位協定ってなんだ？」全3回）、南西諸島・宮古島の清水早子さん（宮古島編・全3回）、種子島の和田佳穂理さん（「今、無人島馬毛島が熱い」全3回）の収録を終え、石垣島の藤井幸枝さんのお話をうかがうところです。沖縄の会や現地の方々の訴えによって、琉球弧の要塞化の実態がひしひしと伝わってきます。

## デモ・リサはどうやって観る？

では、どうしたらデモ・リサは観ることができるのでしょうか？ ちょっと説明したいと思います。

① まずネットの画面で、「ゆーちゅーぶ demo-rese」と入力してください。「ゆーちゅーぶ」は平仮名でもカタカナでも構いません。「demo-rese」は横文字なので大変ですが、「半角/全角・漢字キー」を押して英語入力モードに変換してから頑張って入れてください（小文字でも大文字でも構いません）。



② 「検索」を押して、下のような画面がありましたら、クリックしてください。

**DEMO-RESE TV - YouTube**  
[www.youtube.com/.../UCTuQ8Xwc9On5I2es](http://www.youtube.com/.../UCTuQ8Xwc9On5I2es)

Enjoy the videos and music you love, upload amily, and the world on YouTube.

③ 下のようなデモ・リサのページになりますので、観たいものを選んでください！



## 新たな発信基地をつくらう！

マスコミが本当のことを伝えないという実態があります。しかし、愚痴を言うだけでは何も改善されません。わたしたち自身が情報を発信してゆく方法を工夫してゆく必要があると思います。コロナ下で、そのことが喫緊の課題となっています。人々に、とりわけ次代を担う若者に語りかけるツールを育ててください。わたしたちの自前の発信基地をつくりましょう。どうか、デモ・リサをご支援ください。視聴とチャンネル登録をよろしくお願い致します…m(\_)\_m

# 「告示・縦覧」後の辺野古闘争を考える

毛利孝雄（辺野古土砂全協・首都圏グループ）

辺野古設計概要変更申請書の「告示・縦覧」から明らかになったこと、そして今後の課題について、去る10月9日北上田毅さんを囲んでお話を聞く機会を持った。3点にわたり問題意識を報告する。

[1] 軟弱地盤—困難からは逃れられない

## ■軟弱地盤はいのちを育む心臓部

防衛省が提出した設計概要変更申請書に対する意見書は、全国から18,904通（速報値）が寄せられた。2013年の埋立申請時の約6倍に上った。

意見書は、沖縄はもとより全国で沖縄と向き合った人々の、かけがえのない記録である。なかでも、印象深かった「ヘリ基地いらぬ二見以北10区の会」の意見書から一部を紹介したい。

「…『軟弱地盤』と称される場所は『マヨネーズ』でも『ヘドロ』でもなく、石灰質の柔らかい砂泥の中に無数の微小で原初的な生き物たちが息づく、いわば大浦湾の生物多様性の原点、大浦湾に生きる多種多様の命の体系を底辺で支える心臓部ともいえる存在です。…」

やんばるの森そして大浦湾とともに生きてきた人々には、「軟弱地盤」は全く違ったものに映っている。

## ■肝心な点の記述なし

大浦湾埋立区域の約6割を占めるこの軟弱地盤を、7万本を超える砂杭で置き換える地盤改良を行うというのが、技術検討会等で議論されてきた内容である。ところが、変更申請書には、軟弱地盤の改良を70cmまででよしとする根拠や砂杭の本数・太さなど、肝心な点の詳細な記述が全くないのだ。

防衛省の思惑は、今後の工事にできるだけ広い裁量を確保することで、沖縄県の権限を封じることにあると見ていいだろう。その先には、沖縄世論の分断と政府の意のままになる知事の

実現が目指されているはずだ。

## ■逃れられない困難

立石雅昭新潟大名譽教授は、防衛省や専門家による技術検討会の報告資料から、次の問題点を指摘している。

①「普天間飛行場代替施設」と称しながら、国土交通省の「空港基準」ではなく、「港湾基準」に基づいた設計変更②耐震設計の基本・最新の科学的知見を無視③深さ70cm以深の軟弱地盤の改良を行わなくても良いとする非科学性④工事中および供用期間中、地震による護岸崩落の可能性⑤埋め立て地内の震源断層としての活断層の調査・解析の放棄。（琉球新報9/9）

菅政権・防衛省は、今後、たとえ裁判で「変更承認」を得たとしても、これらの困難から逃れることはできない。

[2] 埋立て土砂・海砂—海と山そして生活環境の破壊

## ■県内から全量調達

今回の「設計変更申請」が沖縄社会にもたらす最も深刻な問題は、埋立土砂・海砂の県内全量調達計画だろう。

当初の計画では、土砂必要量の約7割を九州・瀬戸内など県外から搬入する予定だった。今回の県内全量調達への変更によって、沖縄では当初の本部、国頭に加え、宮城島や糸満・八重瀬、さらに南大東島、宮古島、石垣島など、全域から土砂が搬出されることになる。

沖縄県は、特定外来生物の侵入を防ぐために、土砂条例で県外からの土砂搬入を規制している。県内全量調達は、この土砂条例の適用回避がねらいだろう。さらにいえば、辺野古問題を沖縄

内部に押し込むこと、当初の2～3倍にもなっている岩ズリ（土砂）単価による利権誘導で、新基地反対の沖縄世論を懐柔・分断するねらいも透けて見える。

#### ■自然と生活の破壊

環境破壊は、埋め立てられる辺野古・大浦湾にとどまらない。大規模な土砂採掘は山を破壊し、自然や風景を一変させてしまうのではないかと。国は、土砂採取の環境配慮は納入業者の責任としている。業者任せの土砂採取が何をもたらすか。現在、辺野古へ埋め立て土砂を搬出している琉球セメント安和鉦山が如実に示している。

沖縄本島で採掘された土砂は、辺野古まで海上搬送される。そのため、現在の本部・塩川だけでなく、奥港・中城湾港・那覇新港などの使用が予定されている。那覇市内はもとより、ダンプトラックによる渋滞や粉じん公害が県内全域に広がる。

#### ■いまでも遺骨が眠る南部

糸満市と八重瀬町は、県内調達可能量の7割の採取場所とされている。沖縄戦では県民の4人に1人が亡くなった。南部はその激戦地だ。いまでも3千柱近い戦没者の遺骨が見つかっていないという。遺骨収集も放棄してきた国が、多くの遺骨が眠るであろう南部の土砂を、軍事基地建設のために使うなど許されることではない。

#### ■県採取量2年分超の海砂が辺野古へ

軟弱地盤改良のため、敷砂・砂杭・ケーソン護岸の中詰め材として必要とされる海砂も県内調達される計画だ。その量は、沖縄県の年間採取量の2～3年分にも及ぶ。そもそも海砂採取は環境への影響が大きいと、西日本各県のほとんどが禁止もしくは総量規制を設けている。

「設計変更」が、沖縄の海と山、そして生活環境を破壊することは明らかだ。

【パンフレットの紹介】 辺野古新基地の今後を考える上で必携！

北上田毅さん著【解説】 辺野古・変更申請書の内容と問題点／頒価 300円

## 「マヨ基地」ってわかりますか？

辺野古工事に批判的な地元の若者らはこれを「マヨ基地」と呼び始めたという。マヨ基地の「マヨ」とはマヨネーズのこと。辺野古新基地建設で海底の軟弱地盤がマヨネーズ並みと言われているので、それを揶揄(やゆ)してネーミングしたのだ。

この言葉を広めたのは、名護市に住むユーチューバーの多嘉山侑三さん(36歳)。多嘉山さんは、基地をはじめ時事問題を独自の視点で解説した番組「うちなーありんくりん(「沖縄あれこれ」という意味)TV」を製作し配信している。

約1年前に作ったのがミュージックビデオ(MV)「マヨ基地」で、美(ちゅ)ら海を背に、仲間の女性ユーチューバーと踊りながらラップ調で訴えかける。

2月現在で「ありんくりん」の登録者3100人、再生回数15万5000回もあるそうだ。今度の講演も、水道橋交差点で中継をし、通りゆく人に見てもらい、質問もうけるという演出もあった。テーマも那覇軍港浦添移転問題などおススメできる。



富田英司(沖縄を語る会共同代表)

# 沖縄スケッチ・ヤンバル便り(3-2)

金 治明(ジュゴンの海)

編集部:前号に載せきれなかった部分を載せていきます。

読者の皆さんも既にお分かりと思いますが在沖米軍の7割は海兵隊の基地です。キャンプ・ハンセン・普天間基地、キャンプ・シュワブ等です。キャンプ・シュワブとハンセンは地続きです。キャンプ・ハンセンは名護市、宜野座村、金武町、恩納村にまたがる基地で主に実弾演習場で、実戦的な訓練が自衛隊との共同訓練も行われています。

シュワブに勤務している米兵達はハンセンの有る宜野座村、金武町に米軍住宅、高級マンションからキャンプ・シュワブに通勤しています。将に、米兵たちの生活圏は同地区です。

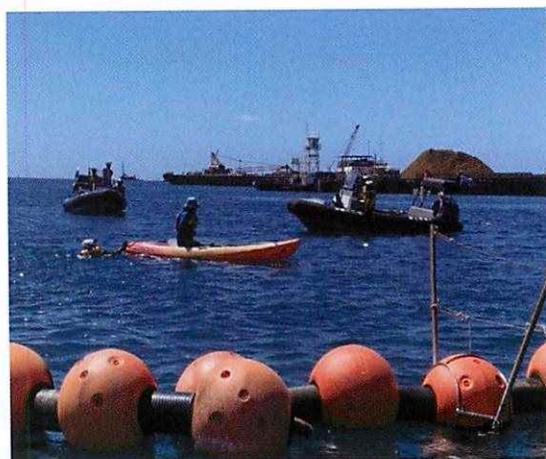
沖縄では各基地に定期的に運行するシャトルバスがキャンプ・シュワブ～ハンセン～コトニー～嘉手納～普天間を運行しています。これを、グリーンラインと呼んでいます。このグリーンラインのバス運転手もコロナに感染しました。

米兵達は広範に移動しているのです。訓練となれば、多数の兵士達が密集して行動します。このような現状を考慮して米軍はキャンプ・シュワブに出入りする2000～3000人の動向を「軍事機密上」のため実数は公表せずしません。キャンプ・ハンセンと普天間基地だけで現在400名以上の感染者が確認されています。キャンプ・シュワブから感染者が1人も出ないと信じる人がいるだろうか。もし、感染者が0だとしたら21世紀最大の奇蹟になります。トランプと安倍は辺野古基地建設強行の為にキャンプ・シュワブのコロナ感染者を隠ぺいしています。

在沖米軍司令官は速やかにシュワブでの感染者と人数、経過を公表すべきです。

安倍政権は人命尊重第一として米軍の顔を窺わないで、基地に従事しているウチナンチューを「国民の命と財産を守る」国の責任者としてコロナから守る義務があります。

キャンプ・シュワブでは7月のクラスタの発生以来も海上警備員に感染者が出ても辺野古埋め立て工事を強行しています。



カヌー隊、台船への抗議行動！(7月20日)

オール沖縄会議は玉城デニー知事のコロナ緊急事態宣言を受けて組織的な辺野古新基地建設抗議行動を9月7日まで中止しました。私達、海上行動隊、カヌー隊は人命尊重、コロナ感染拡大防止のために玉城知事の緊急事態宣言を受け火事場ドロボー的な人の不幸を顧みず基地建設を急ぐ安倍政権の工事強行に怒りを込めながらも基地建設阻止のはやる心を抑え、現在は抗議活動は停止しています。(中略)

私達はこの様な時期だからこそ在沖米軍基地の閉鎖を求めて>8月5日、河野太郎防衛大臣、田中利則沖縄防衛局長交渉

をしました。沖縄防衛局前に横断幕と辺野古ブルーの旗を立て集会を開きました。

私達は4個の要求項目、

- ①. 在沖米軍基地を当面閉鎖する様に米軍に申し入れること。
- ②. 基地内感染について、感染拡大防止に必要な全ての情報を公開させること。
- ③. 県内全基地全ての従業員にPCR検査を行うこと。
- ④. 辺野古新基地建設を直ちに中止し、その費用をコロナ対策に充当すること。

を申し入れました。しかし、対応した西村拓次長は「米軍は適切な対策をとっていると理解している」と見解を述べ「普天間飛行場の固定化を避ける為には辺野古移設

### 不要不急の辺野古基地建設費用をコロナ対策に！

今は、何よりも先に、緊急にコロナ検査体制をさらなる感染拡大に備えた医療機関の設備の充実及び医療労働者の待遇改善、賃金保障を強化して人民の命と生活を守る為に資金を回すことが大切です。対米従属の侵略戦争に向けた軍事大国化を停止し、一機100億円もするF35Bや辺野古に配備予定のオスプレイ100機、トランプの言いなりに不要不急のミサイルなどの武器の爆買をやめ軍事費を医療、社会福祉に回す闘いを始めましょう。

完成まで目途の立たない辺野古新基地は県予算で1兆5千億円、工期12年等は不要不急の基地です。米軍に出している思いやり予算は1日5億円だそうです。これらの戦争につながる軍事費の全てを国民の命を守る「自国」第一主義を国際主義の立場で貫徹しましょう。

米国は自軍のアメリカ人をコロナ感染拡大から守る為に全てをオープンにして日米人民の連帯、協力でコロナを撃退しなければなりません。新型コロナウイルスは世界的にその感染を広げてこれから先の

が唯一つの解決策だ。引き続き着実に工事を進めたい」との安倍、菅と一致した答弁を繰り返しました。

交渉にはヘリ基地反対協の仲本事務局長、東恩納、仲村名護市議、幹事の浦島さんとカヌー隊のSさんが参加しました。(中略)

私達は8月29日の緊急事態宣言終了までは海上カヌー行動は控えていますが、毎日監視船を出し、工事の進行状況を確認しています。又、有志としてキャンプ・シュワブゲート前、安和、塩川での抗議活動をマスク着用で三密、を避け社会的距離を取りながら闘っています。因みに熱中症対策も大変です。



10月3日七百人がシュワブゲート前で県民大行動

回復の見通しは見えていません。しかし確実に言えるのは感染死亡者は貧困層に集中しています。感染大国アメリカでも黒人、アジア、スパニッシュ系の下層労働者です。コロナ禍で苦しむ全ての人民に国民の血税を軍事費をカット、とりわけ野宿労働者に優先的に交付金を。不要不急のミサイに、辺野古建設費を倒産、解雇、生活苦にあえぐ人民に分配すべきです。これこそが武器より医療機、対決よりも対話、個人主義より主義を！口先の平和よりも真の平和を！コロナ危機をチャンスへ変革していく今がその時ではないでしょうか。辺野古新基地建設阻止！政権を打倒しましょう。《2020, 8, 22》

(編集責任、写真・資料：大石)

《金治明さんのメッセージ》 11月21日の辺野古行動は、カヌー30艇、抗議船・ボート6隻

## 「新基地よりコロナ対策」を訴え海上抗議行動

抗議集会は辺野古崎のK8護岸沖合で開かれた。この護岸には運搬船が接岸し、埋め立てに使う土砂を基地内に運び込んでいた。集会参加者はカヌーや船から「基地を造るな」「民意を守れ」などとシュプレヒコールを挙げ、作業員や警備を続ける海上保安官や警備員らに抗議していた。(琉球新報)

11月21日午前、名護市辺野古の米軍キャンプシュワブ沿岸ではカヌーで抗議していた人たちが次々とオイルフェンスを超え、海上保安庁に拘束されています。



**辺野古の海にジュゴン帰ってきた？**

**基地建設現場で200回鳴き声か**

**2020年11月29日**

沖縄県名護市辺野古の米軍新基地建設現場の沿岸部で、絶滅危惧種のジュゴンとみられる鳴き声今年に入り200回以上検出されている。2018年12月の土砂投入後は長く途絶えていたが、それ以前は周辺海域に生息していた。県は埋め立てを止め状況を確認するよう求めているが、政府は「適切に環境保全措置を実施している」と主張し、工事を継続している。(山口哲人)

### ◆水中カメラでも姿は見えず

防衛省は辺野古沖の水中に常時稼働する複数の録音装置を設置している。このうち水深10メートル付近の1台が今年2月11日、1年5か月ぶりに鳴き声らしき音を検出。公表された9月分までの音の検出は計204回に上った。防衛省が海洋生物の専門家に音声分析を依頼したところ、周波数や持続時間から「ジュゴンの鳴き声である可能性が高い」との見解が示された。

沖縄本島周辺では3頭の存在が確認されていたが、そのうち1頭は昨年3月、死骸が同県今帰仁村の漁港に漂着し、残り2頭は行方不明。土砂投入直前の2018年11月、辺野古周辺の海底に生える海草を食べた跡が見つかったのを最後に、生存情報はない。防衛省の水中カメラにも、姿は捉えられていない。

### ◆環境団体「ジュゴンは騒音に敏感、

しっかり調査を」

防衛省は「工事によるジュゴンへの影響は認められていない」と、因果関係を否定。米軍普天間飛行場(宜野湾市)の危険性除去と日米同盟の抑止力維持には「辺野古移設が唯一の解決策」という立場を貫く。

環境団体「ジュゴン保護キャンペーンセンター」の蛭川義章共同代表は「現場海域には埋め立て土砂の運搬船が頻繁に往来する。ジュゴンは騒音に敏感だ。工事を中止し、しっかりと調査をするべきだ」と主張する。